じばさんぴん

地場産品ができるまで

とくさんひんかいたいしんしょ

しずおか特産品解体新書®

- 駿河竹千筋細工
- 駿河雛人形
- 静岡挽物
- 駿河漆器・駿河蒔絵
- 駿河塗下駄
- 井川メンパ
- 駿河雛具
- 駿河指物
- 駿河和染
- 賤機焼

- 木製家具
- 木製文具
- 建具
- 金属製品
- サンダル・シューズ
- お茶
- 木製雑貨
- 仏壇
- 木工機械
- ツキ板
- プラスチックモデル
- わさび漬

地域の未来によりそう
しずおか焼津信用金庫

はじめに

豊かな自然と温暖な気候に恵まれた静岡市は、徳川家康が晩年を過ごした駿府城を中心に発展した街です。

特に産業の面では、駿府城や浅間神社と深い係わりを持って発展したものが多くあります。

中でも、地場産業と言われている産業は多くの職人さんたちが、昔ながらの製造方法を守りながら、これに工夫と改良を重ねて、現在あるような地場産業へと育ってきました。

特に近年は、製造などに係る経費を可能な限り少なくするために機械化し、省力化しようとする考え方が大勢を占めています。

そんな中にあって昔から伝えられている手法を大切に守りながら、より良い製品を作り出そうと、努力している人々がいます。

静岡市の地場産業は、このような人々の努力によって守られ、発展してきました。

今では、日本国内はもとより、外国の人々にも愛用されている製品がたくさんあります。

私共は、この地場産業を支えてきた職人さんたちを始めとする多くの人々の汗と努力の歴史や、数々の優れた特産品を知ってほしいとの願いから、この「しずおか特産品解体新書」という冊子を発刊いたしました。

この冊子を一人でも多くの皆さんに読んでいただき、私たちの住んでいる静岡市の歴史や産業などについての知識を深めていただきたいと思います。

そして、この冊子が私たちの故郷である静岡市をさらに住みよい、豊かな街にするため、皆さん一人一人が真剣に考えるきっかけになる事を、心から願っています。

最後にこの冊子の発刊にあたり、資料の提供やご指導をいただきました多くの皆様に厚くお礼を申し上げます。

令和３年６月

しずおか焼津信用金庫

理事長　田形和幸

目　次

- わたしたちのまちの地場産業 ・・・・・・・・・・ 6･7
- 駿河漆器職人さんの一日 / 木工職人をめざす若者の一日 ・・ 8･9
- 「駿河竹千筋細工」ができるまで ・・・・・・・・・ 10
- 「駿河雛具」ができるまで ・・・・・・・・・・・・ 12
- 「駿河雛人形」ができるまで ・・・・・・・・・・・ 14
- 「駿河指物」ができるまで ・・・・・・・・・・・・ 16
- 「静岡挽物」ができるまで ・・・・・・・・・・・・ 18
- 「駿河漆器・駿河蒔絵」ができるまで ・・・・・・ 20
- 「駿河塗下駄」ができるまで ・・・・・・・・・・・ 22
- 「駿河和染」ができるまで ・・・・・・・・・・・・ 24
- 「井川メンパ」ができるまで ・・・・・・・・・・・ 26
- 「賤機焼」ができるまで ・・・・・・・・・・・・・ 28

国が指定する伝統的工芸品

静岡県が指定する郷土工芸品

目　次

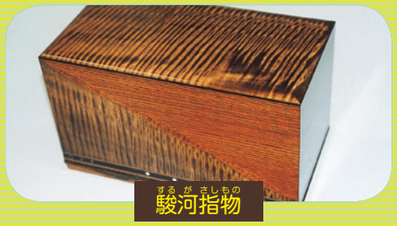
- 「木製家具」ができるまで ・・・・・・・・・・・・ 30
- 「木製雑貨」ができるまで ・・・・・・・・・・・・ 32
- 「木製文具」ができるまで ・・・・・・・・・・・・ 34
- 「仏　壇」ができるまで ・・・・・・・・・・・・・ 36
- 「建　具」ができるまで ・・・・・・・・・・・・・ 38
- 「木工機械」ができるまで ・・・・・・・・・・・・ 40
- 「金属製品」ができるまで ・・・・・・・・・・・・ 42
- 「ツキ板」ができるまで ・・・・・・・・・・・・・ 44
- 「サンダル・シューズ」ができるまで ・・・・・・ 46
- 「プラスチックモデル」ができるまで ・・・・・・ 48
- 「お　茶」ができるまで ・・・・・・・・・・・・・ 50
- 「わさび漬」ができるまで ・・・・・・・・・・・・ 52
- しずおか特産品見聞録 ・・・・・・・・・・・・・ 54･55

● 表紙 ●　静岡県郷土工芸品　駿河和染「紺徳」望月　良氏

駿河竹千筋細工

駿河雛具

駿河雛人形


駿河指物

静岡挽物

駿河漆器・駿河蒔絵

駿河塗下駄

駿河和染

井川メンパ

賤機焼

木製家具

木製雑貨

木製文具

仏 壇

建 具

木工機械

金属製品

ツキ板

サンダル・シューズ

プラスチックモデル

お 茶

わさび漬

わたしたちのまちの地場産業

静岡浅間神社

1．地場産業とは、

地場産業とは、昔ながらの手法に工夫と改良を重ねながら地域（註）との深い係りを持って育った産業で、生産量、生産額ともに市・町・村の中では、代表的な産業を一般的に地場産業とよんでいます。

（註）地域とは

江戸時代には、いろいろな職種の職人さん達がお互いに協力して、物をつくるために住んでいた一定のまとまった地域（職人町ともいう）がありました。

例えば、浅間神社の神器（神様にお供え物をする時に用いる器）や領主（城を持たない一万石以上の武家）などに納める食器作りには、木地師や塗師といった職人さん等が一定の地域に住み、そのうえに自分の得意とする技術を持ち寄り、協力してつくっていました。現在では、交通手段が発達しているため、地域という枠を必ずしも必要としませんが、江戸時代には、一定の地域の中に住んでいないと、非常に不都合な事が多くありました。また、地域（職人町）の中には、つくられている物の名前や、つくられている物の文字が入っている地名があります。

食器は、御器屋町（現在の西草深町）でつくられていた関係上、町名の中に「器」という字が入っています。この外にも、大工町、大鋸町、呉服町、紺屋町、茶町、桶屋町といったように、つくられていた物に関係した町名があります。

2．静岡の地場産業の生い立ち

静岡市（葵区・駿河区）の地場産業は、駿府城や浅間神社、久能山東照宮の建築などの大きな事業に支えられて発展してきました。中でも、徳川時代にごうかに建てかえられた静岡浅間神社が、今日の葵区・駿河区の地場産業の発展に大きな影響をあたえてきました。この浅間神社は多くの費用と、長い年月をかけて完成しました。この工事には、全国から宮大工（お宮さんなどをつくる大工）、左官、建具職、飾り職、塗師など、大勢の職人さん達が集められました。

この職人さん達の仕事は、自分の代だけでは終わらず、子供や孫の代までも続く大きな仕事であったために、一家をあげて駿府（静岡市）に移り住んできました。これらの職人さん達は浅間神社が完成した後も、駿府の気候や、自然を好み、また、神社やお寺、大名などが使う道具をつくる仕事が数多くあったことから駿府（静岡市）に定住するようになりました。

そして、自分の得意とする技術を磨きながら自分の持っている技術を地域の人々に教え伝えてきたのが、静岡市（葵区・駿河区）の地場産業の始まりといわれています。

このように静岡市（葵区・駿河区）の地場産業は、江戸時代から明治時代にかけて、その基礎が形づくられました。その後も新しい技術を取り入れたり、新しい商品を開発したりしながら現在あるような地場産業へと発展してきました。

3．現在の地場産業

静岡市には現在、木製家具、サンダル・シューズ、プラスチックモデル、駿河雛具・雛人形、仏壇、木製雑貨、建具、駿河竹千筋細工、駿河指物、駿河蒔絵、駿河漆器、駿河塗下駄・張下駄、駿河和染、静岡挽物、木製文具、製材、木工機械、金属製品、ツキ板、缶詰、造船、機械金属、製材（清水区）、染物（清水区）などの地場産業があります。

これらの地場産業は、職人さん達が自分の持っている技術を人の手から手へと伝えながら、その技術にさらに工夫と磨きが加わって、現在ある地場産業へと発展してきました。

静岡市の地場産業の中でも、最も代表的なプラスチックモデルは日本一の生産量で、しかも、多くの製品が海外へ輸出されています。このプラスチックモデルは、下駄職人さんの技術や、木工技術が基礎となり、木を加工して飛行機や船などの模型がつくられ、これが現在のプラスチックモデルへと発展してきました。

このように、現在の地場産業は古い歴史と職人さん達の工夫と、努力の中から生れ育ってきたともいえます。

現在、静岡市の地場産業は、後継者不足や職人さんの減少などに加え、輸入製品の増加等により販売競争がますます激しくなる中で、多くの人達が興味を持って愛用してくれる製品を、いかに効率よくつくれるかという大きな問題をかかえています。

今後、このような問題をどう解決していくかが、静岡市の地場産業の発展に大いに影響してくるものと思われます。

4．将来への期待

静岡市の歴史や多くのすぐれた技術を基礎に新しい産業が造り出され、これらの産業が日本国内はもとより、世界に誇れる地場産業へと育っていくよう、皆さんの努力が期待されます。

駿河漆器 職人さんの一日

午後8時

新井 吉雄 さん

あらい漆工房

静岡市葵区幸町10-6　電話(054)253-8692

自身の技をみがく作品作りや、生活の糧となる仕事などのほか、伝統の技術を若い人たちなどに伝えることも職人さんの役目です。

午前8時

塗った漆に「ほこり」などが付かないように、毎日のそうじは欠かせません。

午後4時

一度作業をはじめると、なかなか途中で止めることは出来ません。

午前8時30分

「へら」や「刷毛」などの道具の手入れも毎日の重要な仕事です。

午前11時

漆は、お椀などの小さな物から、家具などの大きな物まで、いろいろな物に塗られます。

木工職人をめざす若者の一日

野木村 敦史 さん

有限会社インテルナ南條

静岡市葵区牧ヶ谷2114　電話(054)278-5141

いろいろな作業が出来なければ、一人前の木工職人とはいえません。

午前8時

その日の作業の打合せ、準備体操、そして道具の手入れなどは欠かせない日課です。

午後5時

パソコンを使い製品の設計なども行ないます。後片付けも大切な仕事です。

午前9時

どうしたら効率よく正確な作業が出来るかいつも考えながら、作業をしています。

午後2時

同じ品質の製品を、決められた期限までにつくることが最も難しいことです。

駿河竹千筋細工

Suruga Bamboo Lattice Ware

＊おもな製品

盆、うつわ（花器・盛器・菓子器）受皿、電気スタンド、虫かごなど。

＊製品の特長

細く割った竹を丸く加工した「ひご」を、曲げたり、つなぎ合わせたり、組んだりしてつくります。

＊つくりかた

①竹を切ったり、割ったり、削ったりして材料をつくる。
②「ひご」をつくる。
③材料を曲げて「輪」をつくる。
④「輪」に穴をあける。
⑤「輪」に「ひご」を通して組み立てる。

＊おもな材料

竹：苦竹（まだけ）、孟宗竹（もうそうちく）

＊おもに使う道具

のこぎり、なた、せん台（竹を削って厚みをそろえるもの）、胴乱（竹を曲げるこて）、ボール盤（輪に穴をあける機械）など。

＊最もむずかしいところ

竹の「輪」のつなぎめがわからないようにすることと、「ひご」をきれいに曲げることです。

＊静岡でできるわけ

静岡は気候が温暖で、良い竹がたくさんとれます。また、昔は「かさ」や「鳥かご」、「虫かご」などをつくっていましたが、最近では、「花器」や「電気スタンド」などいろいろな種類の生活道具をつくっています。駿河竹千筋細工は伝統的工芸品として国で認められています。

ことば（業界の専門用語）

「へ　ぎ」…… 竹を薄く裂くことです。
「くじき」…… 切り込みの入った竹を細かく割ることです。
「せんかけ」‥ 竹を削って厚さをそろえることです。

県内事業所数	13所（平成19年）
県内年間出荷額	160百万円（平成19年）

資料：静岡県経済産業部商工業局（平成20年度調べ）

＊組　合

静岡竹工芸協同組合
静岡市葵区五番町3-11　電話（054）252-4924

①材料作り（竹を必要な長さに切ります。）

②材料作り（竹の皮は削り、「なた」で必要な寸法に割ります。）

③厚み決め（「せん台」）を使い小割した竹の厚さをそろえます。）

④ひご作り（厚さをそろえた竹に切り込みを入れて割り、先を細く削ります。）

⑤ひご作り（細かく割った竹を鉄板の穴に通して丸い「ひご」をつくります。）

⑥輪作り（熱した胴乱に竹を巻きつけて「輪」をつくります。）

⑦曲　げ（熱した「こて」を使い「ひご」や材料を曲げます。）

⑧穴あけ（輪に「ひご」を通す穴をあけます。）

⑨組み立て（輪にあけた穴に「ひご」を通して組み立てます。）

⑩完　成（表面を塗って完成です。）

駿河雛具（するがひなぐ）

Suruga Hina ParaPhernalia

＊おもな製品

三方、本ぜん、菱台、高杯、たんす、牛車、おかご、ぼんぼり、びょうぶ、ひな壇、人形ケースなど。

＊製品の特長

細かな細工をした製品が多いことと、塗り上がりが美しいことや、蒔絵の模様が華やかなことです。

＊つくりかた

それぞれ専門の職人さんが細かな作業をしています。

①木地作り　④金具作り
②塗　装　⑤房作り
③蒔　絵　⑥仕　上

＊おもな材料

ほう、ひのき、アガチスなどの木材と、真ちゅう、アルミニウム、鉄、銅などの金属や、漆やカシュー漆などの塗料。

＊おもに使う道具

のこぎり、かんな、ろくろ、紙やすり、へら、はけ、ふで、金づち、たがね、木づちなど。

＊最もむずかしいところ

品質の良い材料をえらぶことと、漆をていねいに塗ることや、蒔絵をきれいにつけることです。

＊静岡でできるわけ

昔から静岡には、「ひな道具」作りにすぐれた技術を持った職人さんが大勢いたからです。今では、静岡市の「ひな具」の生産量は全国一（業界調べ）で、「駿河雛具」は伝統的工芸品として国で認められています。

ことば（業界の専門用語）

「菱　台」……菱餅（菱形をした3～5色のお餅）を盛る菱形の器のことです。
「三　方」（三宝）……三つの側面にくりぬいた穴がある、食べ物を盛るお膳のことです。
「高　杯」……お皿に高い足のついた食べ物を盛る器のことです。

県内事業所数	17所（平成30年）
県内年間出荷額	2,298百万円（平成30年）

資料：静岡県「データでみる静岡県の地場産業」（雛具・雛人形製造業）

＊組　合　静岡雛具人形協同組合

静岡市駿河区中野新田723 ㈲望月屏風店内　電話（054）281-8432

①木地作り（板を切ったり、削ったりして、雛具の木地をつくります。）「指物師」

②木地作り（「ろくろ」を使って丸型の木地をつくります。）「挽物師」

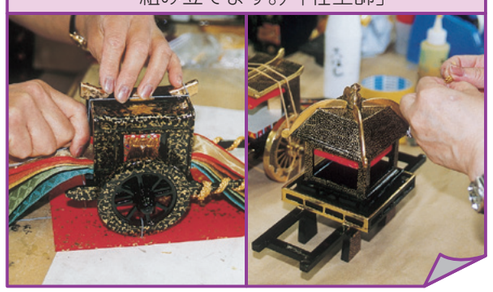
③塗　装（下塗り、中塗り、上塗りと、漆やカシュー漆などの塗料を何回も塗ります。）「塗師」

④蒔　絵（漆で下絵を描いた上に金粉や銀粉などを蒔いて絵をつけます。）「蒔絵師」

⑤金具作り（「たがね」を使い、飾りの金具をつくります。）「金具師」

⑥房作り（飾りの房をつくります。房の結び方にはたくさんの種類があります。）「房師」

⑦仕　上（伝統的な技術を生かして、部品を組み立てます。）「仕上師」



⑧完　成（美しい蒔絵のついた牛車。）

⑨仕　立（出来あがった製品をまとめたり、何をつくるのかを決めたりします。）「仕立師」

ひな飾りには「平飾り」（一段）、「二段飾り」、「三段飾り」、「五段飾り」、「七段飾り」などがあります。

駿河雛人形

Suruga Hina Dolls

＊おもな製品

天神雛、三月人形、時代人形、五月人形など。

＊製品の特長

胴体に「稲わら」を使うことと、人形の衣装の上下が別になっていることです。

＊つくりかた（胴体部分）

①稲わらを固めた胴体に、手やヒザをつけます。
②衣装を着せます。
③人形に動きをつけます。
④頭（顔）をつけます。

＊おもな材料（胴体部分）

稲わら、和紙、針金、くぎ、木毛、綿、着物（金らん織物・友禅織物）など。

＊おもに使う道具

はさみ、カッターナイフ、ミシン、目打ちなど。

＊最もむずかしいところ

人形の顔の表情や衣装のデザインなどに合わせて、人形に動作をつけることです。

①胴　組（胴体のシンは「稲わら」を太く束ねたものです。）

②着せつけ（衣装を着せていきます。）

③着せつけ（中には綿などを入れて、ふくらみをもたせます。）

④着せつけ（衣装は多いもので70種類ぐらいあります。）

＊静岡でできるわけ

静岡では昔から「天神雛」（菅原道真を形どった農業・学問の神様）を飾る風習があり、雛人形（主に胴体）をつくる職人さんが大勢いるからです。また、静岡は全国一（業界調べ）の胴体の生産地で、「駿河雛人形」は伝統的工芸品として国で認められています。

ことば（業界の専門用語）

「胴がら」…… 頭（顔）のない胴体のことです。
「振付け」…… 衣装を着せた人形の両手などを曲げて、雛人形に型をつけることです。

県内事業所数	17所（平成30年）
県内年間出荷額	2,298百万円（平成30年）

資料：静岡県「データでみる静岡県の地場産業」（雛具・雛人形製造）

⑤振付け（「目打ち」などを使い人形に動作をつけていきます。）

⑥振付け（職人さんの個性が発揮されます。）

⑦振付け（衣装の上品なシワも職人さんの腕次第。）

⑧胴体の完成（多くはこの状態で、埼玉・東京・京都などの人形の産地へ送られます。）

⑨頭つけ（静岡では主に「胴体」がつくられています。）

⑩完　成（小道具などをつければ完成です。）

駿河雛人形 ができるまで

するがさしもの
駿河指物

Suruga Sashimono

＊おもな製品

文箱、硯箱、盆、盛器、茶道具、飾棚など。

＊製品の特長

木目を生かした丈夫で美しい様々な指物ができることです。

＊つくりかた（色紙入れ）

①木取り　⑥組み立て接着
②反り狂い直し　⑦甲板削り
③削　り　⑧磨　き
④寸法決め　⑨塗　装
⑤ほぞ作り

＊おもな材料

木地には欅、タモ、クリなどの硬い広葉樹がつかわれています。

＊おもに使う機械と道具

木取り台、焼ばん、プレナー、角のみ盤、ルーター、鋸、鉋、やりかんな、のみ、け引きなど。

＊最もむずかしいところ

つくる物に合わせて木材を正確に加工することと、材料を組み合わせた箇所を美しく見せることです。

＊静岡でできるわけ

静岡には、昔から木材を加工する優秀な技術をもった職人さんが大勢いるからです。また、静岡は気候が温暖で一年中仕事ができ、東京や大阪などの大きな消費地にも近いからです。

ことば（指物とは）

「指　物」：穴をあけたり切り込みを入れたりした板や棒を、金釘を使わないで、指し合わせ組み合わせてつくった木工製品のことです。

県内事業所数	7所（平成19年）
県内年間出荷額	21百万円（平成19年）

資料：静岡県経済産業部商工業局（平成20年度調べ）

＊組　合　静岡木工芸組合

静岡市葵区幸町1-8　電話（054）254-8702

～「色紙入れ」ができるまで ～

①木取り（つくる物に合わせて、材料の板をだいたいのおおきさに切ります。）

②反り狂い直し（熱した鉄板に材料の板をはさんで、曲がりや反りを直します。）

③削　り（横板を「鉋」で必要な厚さに削ります。）

③削　り（蓋板と底板をそれぞれ「鉋」で必要な厚さに削ります。）

④寸法決め（板を正確なおおきさに切ります。細かな加工には「け引き」を使い線や印をつけます。）

⑤ほぞ作り（組み合わせる材料に「のみ」や「鋸」で凹凸をつけます。）

⑥組み立て接着（凹凸に接着剤を塗り、組み合わせてつないだら、底板をはめ込んで接着します。）

⑦甲板削り（蓋板の裏側や角を鉋で削ります。）

⑧磨　き（蓋板を外枠にはめ込んで接着したら、紙ヤスリで磨いて仕上げます。）

⑨塗　装（木目を生かすように漆を何回も塗り重ねれば、駿河指物の完成です。）

しずおかひきもの
静岡挽物

Hikimono
(Wooden Ware)

＊おもな製品

製品には、お盆やお椀、雛道具、おもちゃなどの完成品と、家具や建築用の部品などがあります。

＊製品の特長

新しいデザインを取り入れた木目の美しい製品が多いことと、いろいろな挽物ができることです。

＊つくりかた

①木取り　④磨き
②荒挽き　⑤塗装
③仕上げ挽き

＊おもな材料

欅、桜、トチ、セン、ぶな、かつらなどの木材。

＊おもに使う機械と道具

材料を回転させる機械…ロクロ機（平たい物用）、ダライ旋盤（長い物用）、ニギリ（小物用）など。

＊最もむずかしいところ

刃物の角度や力の入れ具合を調整しながら、高速で回転する材料をくりぬいたり削ったりして、頭の中に描いた形通りの製品に仕上げることです。

＊静岡でできるわけ

静岡には、優秀な挽物技術を持った職人さんが大勢いて、それぞれの職人さんが、手加工や機械加工により、常に使う人たちに喜ばれる製品をつくっているからです。また、その技術を生かして新しい分野の製品作りにも積極的に挑戦しているからです。

ことば（材料を削る刃物の種類）

「ロクロ機用」：ハスマゲ、シャカ、ミズヒキ、アナクリ、キシャギなど。

「ダライ旋盤用」：ツッキリ、丸ノミ、平ノミなど。

「ニギリ用」：姿カンナなど。

県内事業所数	5所（平成16年）
県内年間出荷額	18百万円（平成16年）

資料：静岡県経済産業部商工業局（平成17年度調べ）

＊組合　静岡挽物組合

静岡挽物には、一品ずつ丹念に仕上げられた工芸品と、機械加工による量産品があります。

⑤塗装（最後に、塗料を数回塗り重ねれば完成です。コマなどはロクロ機を回転させながらインクで色をつけます。）

④磨き（回転している材料の表面を、紙ヤスリで磨いて滑らかにします。）

②③木を削る（お盆や、お椀など「平たい物」をつくる時には、ロクロ機で材料を回転させて削ります。）

②③木を削る（専用の刃物には、いろいろな種類があり、つくる製品に合わせて使い分けます。）

②③木を削る（テーブルの足や、階段の手すり飾りなど細長いものは、ダライ旋盤で材料を回転させて削ります。）

①木取り（十分に乾燥させた板を削って、厚みをそろえます。）

①木取り（つくる製品に合わせて、材料を切ります。）

②③木を削る（荒挽きで形をつくったら、仕上げ挽きで整えます。）

②③木を削る（材料を回転させて、専用の刃物で削ります。刃物はすべて職人さんの手作りです。）

駿河漆器・駿河蒔絵

Suruga Lacquerware
Suruga Makie (Gold Lacquer)

＊おもな製品

重箱、椀、花器、菓子器、すずり箱、盆、文庫、下駄、アクセサリー、家具、仏壇など。

＊製品の特長

変った塗り方がたくさんあることと、蒔絵のデザインが新しいことです。

＊つくりかた

「漆器」
（約50位の工程があり、完成までには、３ヶ月ぐらいかかります。）
①錆つけ　③漆塗り
②錆研ぎ　④炭研ぎ

「蒔絵」
（約40位の工程があり、完成までには、３ヶ月ぐらいかかります。）
①置目　③高上げ
②地蒔き　④すり漆

＊おもな材料

木地：かつら、ほう、くわ、さくら、けやき、きわだなど。
塗料：漆、カシュー漆、金粉、銀粉、金箔など。
その他：らでん（貝がらをうすく切ったもの）
卵のから、まこも（水べにはえる草）など。

＊おもに使う道具

ふで、はけ、ヘラ、粉筒、毛棒など。

＊最もむずかしいところ

温度や湿度などにより変る「漆」の状態を確かめながら「漆」を塗ることです。

＊静岡でできるわけ

昔から静岡には、漆塗りのすぐれた技術を持った職人さんが大勢いたからです。また、常に塗り方や蒔絵のつけ方にいろいろな工夫をしているからです。

ことば（業界の専門用語）

「錆」…木地に塗る生漆と砥の粉をまぜたもの。
「角粉」…仕上の時に使う、細かな研磨剤。（昔は鹿の角を焼いて粉にしたものを使いました。）
「粉筒」…金粉や銀粉などを蒔く道具。

	駿河漆器	駿河蒔絵
県内事業所数	14所（平成19年）	16所（平成16年）
県内年間出荷額	100百万円（平成19年）	18百万円（平成16年）

資料：静岡県経済産業部商工業局（平成17年度・平成20年度調べ）

＊組合

静岡漆器工業協同組合
静岡市駿河区大坪町1-3　電話(054)285-1177

静岡蒔絵組合
静岡市葵区桜木町3-9　電話(054)255-5313

「駿河漆器」

①錆つけ（漆がうまくつくように、木地に錆をつけます。）

②錆研ぎ（余分な錆を研ぎ落して、表面をなめらかにします。）

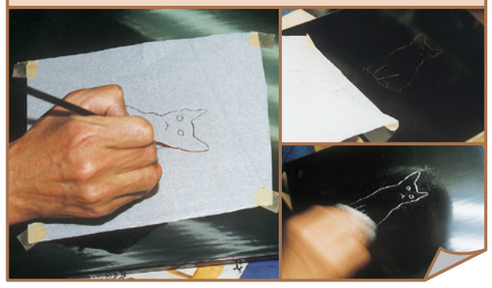
③漆塗り（下塗り、中塗り、上塗りと漆を塗ります。）

④炭研ぎ（駿河炭に水をつけて表面を研ぎます。）

⑤角粉磨き（角粉をつけて磨きあげれば、漆器の出来あがりです。）

「駿河蒔絵」

①置目（漆で描いた下絵を裏返して写し、輪郭に銀粉などをつけます。）



②地描き（輪郭に沿って、絵に漆をうすく塗ります。）

③地蒔き（粉筒に金粉や銀粉などを入れて、塗った漆の上に蒔きます。）

④高上げ（漆を塗り重ねて、絵に厚みをつけます。）

⑤磨き（角粉をつけて、きれいに磨きあげれば蒔絵の出来あがりです。）

駿河塗下駄

Clogs

＊おもな製品

紳士・婦人・子供用の塗下駄。

＊製品の特長

変わった塗り方がたくさんあることと、絵柄や彫刻が美しいことです。

＊つくりかた

約30～40の工程があります。完成までには１ヶ月位かかります。

①木地の調整　④漆塗り　⑦色入れ
②布着せ　⑤炭研ぎ　⑧磨き
③錆付け　⑥彫り　⑨はなお付け

＊おもな材料

木地：桐。
塗料：漆、カシュー塗、ウレタン樹脂、金粉、銀粉など、丈夫ではがれにくい特定の塗料。

＊おもに使う道具

ふで、はけ、ヘラ、ローラーなど。

＊最もむずかしいところ

デザイン（柄）と手法（変り塗り）を上手に組み合わせて、下駄に表現することです。

＊静岡でできるわけ

昔から静岡には、すぐれた漆塗りの技術を持った職人さんが大勢いて、いつも品質の良い塗下駄をつくるために努力しているからです。

漆塗りの下駄は、明治時代に静岡の木地職人さんが考え出したといわれています。

ことば（業界の専門用語）

「な ま ず」：研ぎ過ぎて下の層が出ることです。
「ふしなし」：ほこりなどが付かないように、きれいに塗ることです。
「さいぜん」：研いだ時の水などをふき取る「布」のことです。

県内事業所数	14所（平成16年）
県内年間出荷額	35百万円（平成16年）

資料：静岡県経済産業部商工業局（平成17年度調べ）

＊組　合

静岡木製はきもの商工業組合
静岡市葵区吉野町1−16　電話（054）252−1231
静岡塗下駄工業組合
静岡市葵区清閑町9−22　電話（054）253−4917
静岡木製はきもの張加飾組合
静岡市葵区土太夫町21−1　電話（054）255−4335

①木地の調整（木地を紙ヤスリで磨いて、砥の粉と生漆をねり合わせた「錆」を付けます。）

②布着せ（木地の表面に布をかぶせて、その上からさらに「錆」をつけます。）

③錆付け（錆を付け、乾いたら磨くという作業を2～3回繰り返します。）

④漆塗り（木地の表面が滑らかになったら漆を塗ります。）

⑤炭研ぎ（漆を塗り乾いたら、駿河炭に水を付けて研ぐという作業を繰り返します。）

⑥彫　り（表面に絵や模様を彫ります。）

⑦色入れ（彫った絵や模様に色漆や金粉などを入れます。）

⑧磨　き（細かな研磨剤で、表面をていねいに磨きます。）

⑨はなお付け（木地の穴に「はなお」を通して、しっかり結べば駿河塗下駄の完成です。）

静岡では伝統の技術を生かして、いろいろな種類の塗下駄がつくられています。

駿河和染

Suruga Hand-Dyeing

＊おもな製品

テーブルセンター、のれん、壁掛け、風呂敷、バッグ、財布など。

＊製品の特長

それぞれの職人さんが染色方法に工夫を凝らして、いろいろな染物をつくっていることと、藍色と白色の色合いがはっきりしていることです。

＊つくりかた

①藍建て　②型彫り　③紗張り・型付け　④型送り・ひき粉まき　⑤色差し・枯らし　⑥中干し（かため）　⑦ふ　せ　⑧本染め　⑨水　元　⑩乾　燥

＊おもな材料

生地（綿布、麻布、絹など）、すくも、防染糊など。

＊おもに使う道具

刀、ヘラ、刷毛、筒、張木、伸子など。

＊最もむずかしいところ

すくも（乾燥させた藍の葉）の発酵具合を確かめながら、ちょうど良い色合いの染料をつくることと、染色が終わるまで落ちない丈夫な防染糊をつくることです。

＊静岡でできるわけ

現在も紺屋（染物屋）町という地名が残っているように、静岡では昔から染物が盛んで、優秀な染色技術を持った職人さんが大勢いるからです。

おもな染色方法には、「型染め」（型紙を使って防染糊を布に置く方法）と、「筒染め」（筒に入れた防染糊で模様を描く方法）があります。

ことば（業界の専門用語）

「風入れ」：生地を藍がめから出した後、生地が均等に染まるよう空気にさらすことです。

「かため」：防染糊を丈夫にするための作業をいいます。

「おろす」：生地を藍がめに入れることです。

県内事業所数	11所（平成19年）
県内年間出荷額	90百万円（平成19年）

資料：静岡県経済産業部商工業局（平成20年度調べ）

＊組　合

静岡市染色業組合

静岡市葵区新間1089-197

～「型染め」（型紙を使って行う染色方法）～

①藍建て（乾燥させた藍の葉にアルカリ水などを入れ発酵させ、染料をつくります。）

②型彫り（柿渋を塗った和紙に下絵を貼り付け、刀で彫ります。）

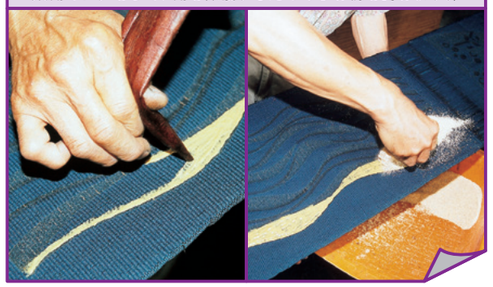
③紗張り・型付け（型紙に紗を貼り付けたら、生地に置き、防染糊をヘラでこすりつけます。）

④型送り・ひき粉まき（模様がずれないように型付けを繰り返しながら、糊を保護するためのひき粉を蒔きます。）

⑤色差し・枯らし（墨や顔料などで模様を強調し、一旦水に浸したら水から上げ、色がしっかり着くまで待ちます。）

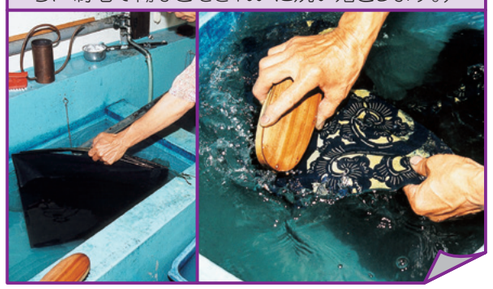
⑥中干し（かため）（本染めに備えて糊を丈夫にするため、生地を藍がめに浸したら乾燥させます。）

⑦ふ　せ（生地が乾いたら、色に変化をつけたい部分に防染糊でフタをして、糊を保護するためのひき粉を蒔きます。）



⑧本染め（生地を藍がめに浸したら、空気にさらして発色を待ちます。）

⑨水　元（染めあがった生地を一晩水に浸したら、刷毛で糊などをきれいに洗い落とします。）



⑩乾　燥（最後に天日で乾かせば完成です。現在、駿河和染はいろいろな製品に加工され販売されています。）

井川メンパ

Ikawa Menpa

＊おもな製品

弁当箱（丸形・小判形）、おひつなど。

＊製品の特長

漆のつやが美しく、丈夫なことです。（漆を塗りかえれば何年も使えます。）

メンパに詰めたご飯は腐りにくいといわれています。

＊つくりかた

①木取り、削り、面取り、木鼻
②木殺し
③乾　燥
④カバ縫い
⑤底入れ・下地・こくそ
⑥面取り
⑦錆付け
⑧錆研ぎ
⑨渋下地・漆本塗り

＊おもな材料

薄く加工したヒノキの板、山桜の皮、漆、柿渋など。

＊おもに使う道具

カンナ、ころ、木ばさみ、めさし、ハケ、竹のへら、紙やすりなど。

＊最もむずかしいところ

温度や湿度に気を配りながら、ホコリがつかないように、漆を塗って仕上げることです。

＊静岡でできるわけ

むかし金山があった井川地区では、金山で使う曲桶（バケツのような物）などの曲物が盛んにつくられていたようで、そうした技術を受け継いだ人たちが、現在、井川メンパをつくっています。

ことば（呼びかた）

「曲　物」：桧などの薄板をまげてつくった器のことです。（井川メンパは曲物の一種です。）

「メンパ」：山などで仕事をする人たちなどが使った今でいう「弁当箱」のことです。

県内事業所数	2所（平成19年）
県内年間出荷額	不明

資料：静岡県経済産業部商工業局（平成20年度調べ）

＊事業所

望月栄一

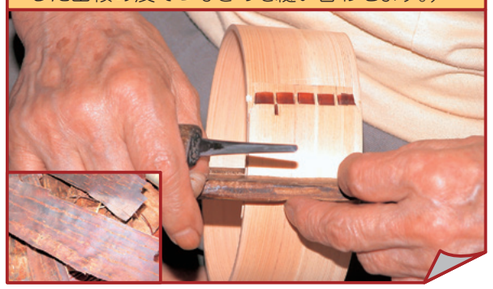
静岡市葵区神明町9-11　電話(054)271-8224

①木取り、削り、面取り、木鼻（ヒノキの板を決まった寸法に加工します。）

②木殺し（加工した薄板を熱湯で煮詰めて軟らかくしたら、すぐに「ころ」を使って曲げます。）

③乾　燥（曲げた薄板を「木ばさみ」で止め、2～3日天日で乾燥させます。）

④カバ縫い（「めさし」で穴をあけ、薄く加工した山桜の皮でつなぎめを縫い合わせます。）



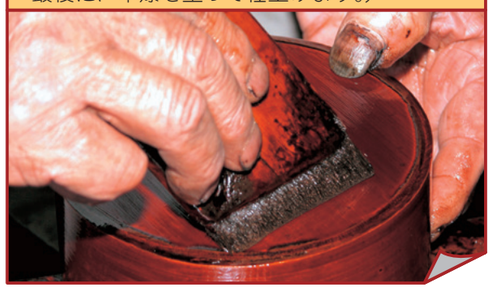
⑤底入れ・下地・こくそ（底板を入れ、全体に柿渋を塗ったら、漆で隙間をふさぎます。）

⑥面取り（ふちをカンナで丸めます。）

⑦錆付け（底やつなぎめに錆漆を塗って丈夫にします。）

⑧錆研ぎ（乾いた錆漆の表面を紙やすりでみがいてなめらかにします。）

⑨渋下地・漆本塗り（全体に柿渋を塗ったら、最後に、本漆を塗って仕上げます。）



最後に湿度を保ったムロで乾かし、木地に漆がなじめば「井川メンパ」の完成です。

しずはたやき
賤機焼

SizuhataYaki

＊おもな製品
花瓶、壺、湯のみ、急須、皿、酒器、置物など。

＊製品の特長
普段気軽に使える素朴な物や、芸術的な物など、いろいろな種類の焼物ができることです。

＊つくりかた
①水簸調合　⑤仕　上
②脱　水　⑥素　焼
③練　土　⑦施　釉
④成　形　⑧本　焼

＊おもな材料
粘土、釉薬原料など。

＊おもに使う道具
ふるい、素焼鉢、土錬機、ロクロ、竹ヘラ、など。

＊最もむずかしいところ
焼け具合を確かめながら、温度を微妙に調整し、きれいに焼き上げることです。

＊静岡でできるわけ
徳川家康から賤機焼きの称号を受け、窯を開いたのがはじまりと言われていて、文化文政（1804～1828年）の頃には、浅間神社や久能山東照宮、駿府城などで使う器や、茶碗などがつくられていました。

ことば（呼びかた）
「釉　薬」（うわぐすり）
吸水を防ぐために下地全体にかける液体のことで、焼き上げると丈夫で光沢のあるガラス質に変化します。中に含まれる金属などの物質の割合を変えることで、様々な色の焼物ができます。

県内事業所数	1所（平成19年）
県内年間出荷額	不明

資料：静岡県経済産業部商工業局（平成20年度調べ）

＊事業所
しづはた焼　秋果陶房
静岡市葵区柳町95　電話(054)271-2480

①水簸調合（砕いた土を水に溶かし、ふるいでゴミなど取り除きます。）

②脱　水（底にたまった粘土を素焼きの鉢にうつして余分な水分を取り除きます。）

③練　土（荒ねりと菊ねりを行い、粘土をしだいになめらかにします。）

③練　土（ほどよく乾いた粘土を土錬機でねります。）

④成　形（ロクロを使って、つくりたい物の形に仕上げます。）

⑤仕　上（適度に乾いたら、竹ヘラ等で形を整えます。）

⑥素　焼（室内で完全に乾かしたら、次に800～850℃の低い温度で焼きます。）

⑦施　釉（模様やつやを出すために「うわぐすり」をかけます。）

⑧本　焼（焼け具合を確かめながら1,200～1,300℃位の高温で焼きます。）

釜から出して十分に冷ませば「賤機焼」の完成です。

賤機焼ができるまで

木製家具

Furniture

＊おもな製品

たんす、ドレッサー、食器だな、食堂テーブル、いす、本だな、サイドボード、リビングボード、組立家具など。

＊製品の特長

塗装がきれいで品質の良い、いろいろな種類の家具ができることです。

＊つくりかた（食器だな）

①切り回し　⑤組み立て・まとめ
②接　着　⑥検査・梱包
③加　工　⑦出　荷
④塗　装

＊おもな材料

けやき、なら、ぶな、さくら、チーク、くるみなどの木材

＊おもに使う機械

NCルーター・自動のこぎり機、コンピューター付かんな盤・穴あけ機、はりつけ機、組み立て機など。

＊最もむずかしいところ

決められた寸法通りにきちんとつくることと、表面の仕上げを美しく塗ることです。

＊静岡でできるわけ

静岡は東京や大阪などの大都市に近く、製品を送るのに便利で、材料の木材が入ってくる港も近いためです。また、昔から「木工」や「漆塗り」などのすぐれた技術者が大勢いて、積極的に新しい商品を開発しているからです。静岡県は全国屈指の総合家具産地です。

ことば（業界の専門用語）

「フラッシュボード」……木材で組んだ枠の両面に、合板を貼り合わせた板のことです。
「ほ　ぞ」……二つの板を組み合わせるために材料に彫るみぞと、出っぱりのことです。
「だ　ぼ」……材料をつなぎ合わせるために使う小さな丸い棒のことです。

県内事業所数	143所（平成30年）
県内年間出荷額	46,097百万円（平成30年）

資料：静岡県「データでみる静岡県の地場産業」（木製家具製造業）

＊組　合　静岡県家具工業組合

静岡市葵区駒形通6丁目8-21　電話(054)254-7201

工場では、いろいろな種類の家具がつくられています。

⑨出　荷（できあがった家具は、全国へ送られます。）

①切り回し（板材や角材を決められた寸法通りに切り、部品をつくります。）

②接　着「フラッシュ構造」（部品に接着剤をつけて機械で押さえます。）

③加　工（部品の側面を削って大きさをそろえます。）

④加　工（部品に「だぼ」を打ちこむための穴をあけます。）

⑤塗　装（部品の表面をみがき、塗料をぬります。）

⑥部品の保管（加工された部品は、種類別に整理しておきます。）

⑦組み立て・まとめ（部品を組み合わせて、扉や金具などを付けます。）

⑧検査・梱包（一つ一つ検査して包みます。）

木製雑貨

Wooden Ware

＊おもな製品

木製宝石箱、木製台所用品、ソーイングボックス、ミニ家具、インテリア小物、木製楽器、木製記念品など。

＊製品の特長

デザインがすぐれていることと、いろいろな種類の製品ができることです。

＊つくりかた

①木取り　②刻み　③組み立て・接着　④木地研磨　⑤下地塗装　⑥塗装研磨　⑦仕上げ塗装　⑧布貼り　⑨まとめ

＊おもな材料

タモ、セン、ナラ、アガチスなどの木目の美しい木材。

＊おもに使う機械

傾斜盤、ＮＣルーター、プレナー、パネルソー、電動ドライバー、サンダーなど。

＊最もむずかしいところ

温度や湿度などにより、伸びたり縮んだりする木材の性質を考えながら、製品に仕上げることです。

＊静岡でできるわけ

木材をいろいろな物に加工する技術が高く、使う人たちの要求にあった様々な製品をつくることが出来るからです。

また、常に新しい製品の開発にも積極的に取組んでいるからです。

ことば（業界の専門用語）

「継　手」：材料のつなぎ合わせる箇所に凹凸をつくり、それをかみ合わせて材料をつなぐことです。

「留　め」：材料の端を45度に削り、それをさし合わせて材料をつなぐことです。

県内事業所数	4所（平成30年）
県内年間出荷額	不明

資料：静岡県「データでみる静岡県の地場産業」（木製雑貨製造業）

＊組　合　静岡雑貨組合

静岡市駿河区曲金3-1-10 特産協内　電話(054)281-2999

静岡は、いろいろな物ができる木製雑貨の総合産地として全国に知られています。

⑨まとめ（止め金具や蝶番などを取り付けてまとめれば木製雑貨の完成です。）

①木取り（十分に乾かした板を必要な長さに切ります。）

②刻　み（つくる製品の寸法に合わせて、切ったり削ったりします。）

③組み立て・接着（必要な穴や溝などを付けたら、接着剤を塗って組み立てます。）

④木地研磨（木地の表面を紙ヤスリで磨いて平にします。）

⑤下地塗装（木地に色を塗ったら、次に表面を滑らかにするための塗料を吹き付けます。）

⑥塗装研磨（下地塗装が乾いたら、塗装した表面が滑らかになるまで紙ヤスリで磨きます。）

⑦仕上げ塗装（仕上げ用の塗料を吹き付けます。）

⑧布貼り（木製雑貨には、宝石箱やソーイングボックスなど、内側に布を貼った製品がたくさんあります。）

木製文具

Wooden Calligraphy Accessories

＊おもな製品

静岡では、印箱やスケッチ箱などの「木製文具箱」をはじめ、「木製救急箱」や「ソーイングボックス」などがつくられています。

＊製品の特長

「ほぞ」（木材をつなぎ合わせるための凹凸）で材料を組み合わせてあるため、壊れにくく丈夫で長持ちすることです。

＊つくりかた（木製救急箱）

①木取り
②削り・寸法決め
③ほぞ切り
④組み立て・接着
⑤切断・研磨
⑥表面加工
⑦塗装・印刷
⑧部品付け

＊おもな材料

アガチス、ツガ、センなどの木材

＊おもに使う機械

傾斜盤、ボール盤、ルーター、ハンドソー、ロッキングなど。

＊最もむずかしいところ

木材を正確に加工することと、「蓋」と「物をいれる部分」がずれないように金具（蝶番や止め金具など）を取り付けることです。

＊静岡でできるわけ

静岡は、昔から漆器（漆塗りの硯箱や文庫など）作りが盛んで、木材をいろいろな木製品に加工する優秀な技術をもった職人さんが大勢いるからです。

また、職人さん達が長年の経験と技術を生かして、品質の良い製品をつくるために、いつも努力しているからです。

ことば（業界の専門用語）

「ハ　　ギ」：板と板をつなぎ合わせることです。
「イモ付け」：材料に組み合わせるための加工をしないで、材料と材料を直接つなぎ合わせることです。

「木製雑貨」に同様

県内事業所数	4所（平成30年）
県内年間出荷額	不明

資料：静岡県「データでみる静岡県の地場産業」（木製雑貨製造業）

＊組　合

静岡木製クラフト

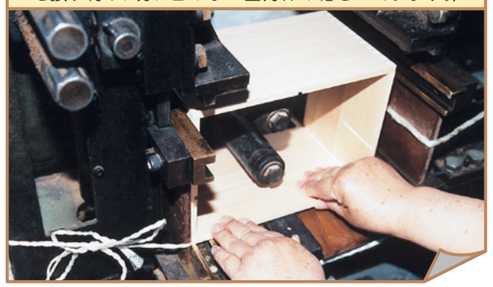
～「木製救急箱」ができるまで～

①木取り（十分に乾かした板を必要な長さに切ります。）

②削り・寸法決め（必要な厚さに削った板を、つくる製品の幅に合わせて切ります。）

③ほぞ切り（箱の側面になる板の両端に、つなぎ合わせるための凹凸を付けます。）

④組み立て・接着（凹凸をつないだら、表と裏に板を張り付け、切れ目のない直方体の箱をつくります。）



⑤切断・研磨（直方体の箱を「蓋」と「物を入れる部分」の二つに切断し、紙ヤスリで磨いて仕上げます。）

⑥表面加工（表面を滑らかにするための塗料を塗り、乾いたら紙ヤスリで磨きます。）

⑦塗装・印刷（艶だし用の塗料を塗り、乾いたら蓋の表面に文字と印を印刷します。）

⑧部品付け（止め金具や蝶番、持ち手などを取り付ければ「木製救急箱」の完成です。）

⑨完　成（現在、木製の救急箱は、静岡だけでしかつくられていないといわれています。）

⑩梱包・発送（出来あがった製品は、傷が付かないように箱に入れて、全国へ送られます。）

仏壇

Family Buddhist Altar

＊おもな製品

仏壇には大きく分けて「金仏壇」（金箔を張った仏壇）と「唐木仏壇」（木目の美しい堅い木を使った仏壇）がありますが、静岡では「唐木仏壇」がつくられています。

＊製品の特長

木地師、塗師、加飾師など専門の職人さんたちの技術と工夫により、丈夫で美しい仏壇ができることです。

＊つくりかた

①杢　張　　③飾り作り　　④⑤塗装・研磨
②木地加工・枠組み　　③金具作り　　⑥組み立て
③障子組子作り　　③屋根作り　　⑦検査・梱包

＊おもな材料

紫檀、黒檀、鉄刀木、屋久杉、桜、花梨、欅、桑、楠などの木材。

＊おもに使う機械

ＮＣルーター、プレナー、ボール盤、ミシン鋸、傾斜盤など。

＊最もむずかしいところ

木地や装飾用の部品を正確に加工することと、木目の美しさを損なわないように塗装することです。

＊静岡でできるわけ

静岡には、優秀な木工技術や塗装技術を持った職人さんが大勢いて、いつも品質の良い仏壇をつくるために、いろいろな工夫をしているからです。また、現代の住宅事情や、生活様式に合った新製品の開発にも積極的に取組んでいます。

静岡県は仏壇の一大産地です。

ことば（業界の専門用語）

「練り」：5～7mmの板を木材に接着することです。

「張」：0.2mm位の突板（木目などが美しい木材から刃物でうすく削ぎ取った板）などを木材に接着することです。

県内事業所数	28所（平成30年）
県内年間出荷額	2,842百万円（平成30年）

資料：静岡県「データでみる静岡県の地場産業」（仏壇製造業）

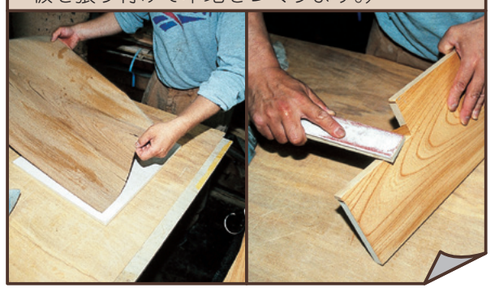
＊組　合

静岡仏壇卸商工業協同組合

静岡市葵区駒形通5-2-7　電話(054)255-9126

それぞれの工場で、専門の職人さんが作業をしています。

①杢　張（必要な大きさに切った木材に、突板を張り付けて木地をつくります。）



②木地加工・枠組み（つくる製品に合わせて木地を加工したら、接着剤を塗って箱枠をつくります。）

③障子組子作り（細く切った木材を組んで、内扉の障子をつくります。）

③飾り作り（板をいろいろな形に切り抜いたり、彫ったりして装飾用の部品をつくります。）

③屋根作り（骨組みに装飾用の部品を取り付けて、内屋根をつくります。）

③金具作り（真ちゅうや銅などを、いろいろな形に加工して、扉金具などをつくります。）

④下塗り・研磨／中塗り・研磨（箱枠や部品に色を塗り、乾いたら磨くという作業を繰り返します。）

⑤仕上げ塗装（塗装と研磨を繰り返すことで、深みのある美しい色合いの仏壇ができます。）

⑥組み立て（屋根や扉、ランマや引出しなどを取り付ければ仏壇の完成です。）

⑦検査・梱包（仕上り具合を検査したら、傷が付かないように包装し、全国へ送られます。）

＊おもな製品

障子、ふすま、ガラス戸、格子戸、フラッシュ戸、衝立など。

＊製品の特長

使う人の好みに合わせて、いろいろな形の建具ができることです。

＊つくりかた（障子・ガラス戸）

①木取り　⑤ほぞ加工
②削り　⑥溝付け加工
③墨付け　⑦腰板削り
④ほぞ穴加工　⑧組み立て

＊おもな材料

スプルース、ヒバ、ヒノキ、スギなど。

＊おもに使う機械

パネルソー、自動プレナー、手押しプレナー、角のみ盤、ほぞ取り盤、傾斜盤など。

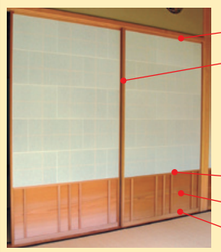
＊最もむずかしいところ

十分に乾燥させた木材を正確に加工することと、隙間が空かないようきっちり組み立てることです。

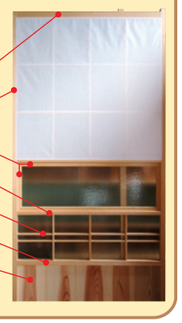
＊静岡でできるわけ

静岡には、優秀な建具技術をもった職人さんが大勢いて、常に丈夫で美しい建具をつくるために努力しているからです。ただ、近年は金属製建具の増加により、伝統的な技術を生かした昔ながらの木製建具作りの仕事は減りつつあります。

ことば（建具各部分の名称）



上桟
框
額
中桟
組子
腰中桟
腰板
下桟



県内事業所数	62所（平成30年）
県内年間出荷額	12,173百万円（平成30年）

資料：静岡県「工業統計調査報告書」（従業員4人以上の事務所）建具製造業

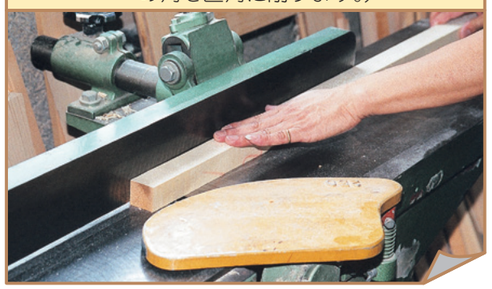
職人さんの高度な技術によってつくられた木製建具は、日本建築に欠かすことができないものです。

⑧**組み立て**（加工したそれぞれの材料に、接着剤を塗って組み立てます。）

～ 障子・ガラス戸ができるまで ～

①**木取り**（パネルソーなどを使い、つくる製品の寸法に合わせて、木材を切ります。）

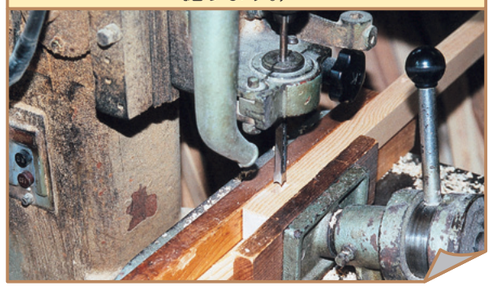
②**削り**（手押しプレナーなどを使い、材料の角を直角に削ります。）



②**削り**（自動プレナーなどで材料を削って、厚みをそろえます。）

③**墨付け**（材料に溝やほぞ穴、ほぞなどの加工を行なうための線や印を付けます。）

④**ほぞ穴加工**（角のみ盤で、材料にほぞ穴を掘ります。）



⑤**ほぞ加工**（ほぞ取り盤で、材料の端を削って、つなぎ合わせるための「ほぞ」をつくります。）

⑥**溝付け加工**（傾斜盤などで、材料にガラスや板をはめ込むための溝を付けます。）

⑦**腰板削り**（板の表面を削って滑らかにします。）

木工機械

Woodworking Machinery

＊おもな製品

のこ盤、かんな盤、刃物研削盤、ほぞ取り盤、角のみ盤、サンダー、ルーター、プレカット機械、塗装機など。

＊製品の特長

機械の精度が高いことと、効率よく正確な加工が行えるいろいろな機械が出来ることです。

＊つくりかた

①製品企画　②開発設計　③製品情報の登録
④材料の調達　⑤機械加工　⑥組み立て
⑦塗装　⑧電装組み付け　⑨整備調整

＊おもな材料

鋳物、鋼材、プラスチック、ゴム、電装部品など。

＊おもに使う機械

旋盤、フライス盤、ボール盤、マシニングセンターなど。

＊最もむずかしいところ

材料や部品をていねいに加工することと、正確に組み立てることです。

＊静岡でできるわけ

木工業が盛んな静岡には、木工機械を使って「家具」や「住宅の材料」などをつくる工場がたくさんあるからです。昔は職人さんが手作業で行っていた木材の加工も、現在ではそのほとんどが木工機械で行うことができます。

静岡県は木工機械の一大産地です。

ことば（業界の専門用語）

「プレカット」：住宅などに使う木材を前もって工場の自動工作機械などで加工することです。

「CAD/CAM」：設計と生産の手助けをするコンピューターの仕組みのことです。

県内事業所数	24所（平成30年）
県内年間出荷額	17,006百万円（平成30年）

資料：静岡県「データでみる静岡県の地場産業」（木工機械製造業）

①製品企画（使う人たちに喜ばれる機械を考えて、製品にする方法を決めます。）

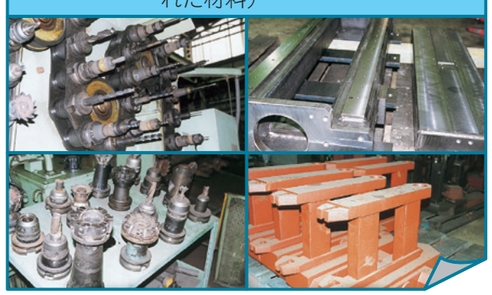
②開発設計（コンピューターを使いつくる機械の設計図を作成します。）

③製品情報の登録（機械をつくるために必要な部品や、つくる手順などをコンピューターに登録します。）

④材料の調達（必要な材料や部品などを取りそろえます。）

⑤機械加工（つくる製品に合わせて、部品や鋼材などを加工します。）

⑤機械加工（材料を加工する刃物と、加工された材料）

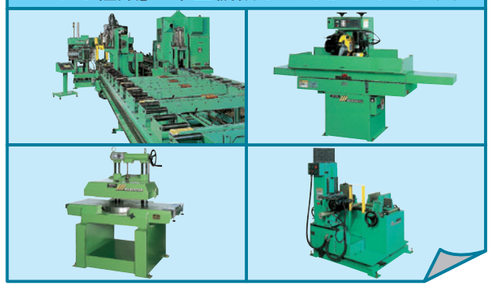


⑥組み立て（図面を見ながら部品を組み立てます。）

⑦塗装、⑧電装組み付け（機械に塗料を塗り、モーターやコンピューターなどの細かな電気配線を行います。）

⑨整備調整、⑩出荷（最後に機械の精度を確かめて細かな調整をすれば木工機械の完成です。）

静岡では木材を切ったり削ったりする「いろいろな種類」の木工機械がつくられています。



金属製品

Metal Products

＊おもな製品

冷凍マグロ、カツオを切る帯鋸機械（バンドソー）。カニの足、ツメを切る機械。サーモンを二つに切る機械。氷のかたまりをボールの形や、サイコロの形に削る機械などをつくっています。

＊製品の特長

魚やカニ、氷を切る機械なのでサビないようにステンレスを材料に使っています。また、中に水が入らないよう工夫された部品を使っています。さらに機械を清潔に保つため水洗いが簡単にできます。

＊つくりかた「小型バンドソー」

①部品をそろえる
②ホイールをとりつける
③モーターをとりつける
④制御ボックスをとりつける
⑤定規をとりつける
⑥非常停止スイッチ、ノコギリカバーをとりつける
⑦操作スイッチをとりつける
⑧上と下のカバーをとりつける

＊おもな材料

ステンレスの板、樹脂、鉄など

＊おもに使う機械

ボール盤、溶接機、ホイストなど

＊最もむずかしいところ

皆さんの口に入る魚を切る機械ですから衛生には特に気を使いつくっています。使う油も人間には無害なものを使います。また、回転するノコギリを使う機械ですから壊れないように正確に組み立てます。ノコギリカバー、緊急停止スイッチなど安全な作業のための部品もとりつけてあります。

＊静岡でできるわけ

静岡県は、マグロ、カツオの水揚げ量が日本で第１位です。焼津港や清水港など大きな漁港がありますし、東京や名古屋に近く、また港の周りには、魚を切る会社が多くあつまります。その魚を切る会社がバンドソーを使うので静岡でつくられているのです。

ことば（業界の専門用語）

「タイヤ」：つくりかたに出てきた「ホイール」の事。ぐるぐる回るから。工場のベテランさんたちが使う事が多い。

「マンジュー」：お菓子ではありません。回転する丸いノコギリ（バンドソー用とは違います）を動かないように押さえる金具。かたちが丸いから。

「べんけい」：ハンドリフト（手動で重い機械を運ぶ道具。理由は、わからない。）

県内事業所数	不　明
県内年間出荷額	不　明

＊組　合

静岡機械金属工業団地協同組合

静岡市駿河区北丸子1-31-70　電話(054)259-8334

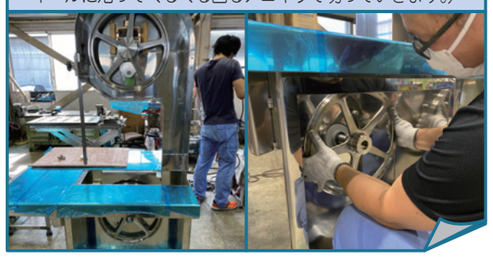
～「小型のバンドソー」ができるまで ～

小型のバンドソーで冷凍のマグロを小さく切っています。日本から遠い海でとれたマグロやカツオは、マイナス60度の超低温で保存され日本にやってきます。バンドソーは、カチンカチンに凍った魚を切る機械です。

大型の機械（バンドソー）で冷凍マグロの胴体を４つに切っています。

①**部品をそろえる**（フレームと呼ばれる金属の箱やモーターなど組立に必要な部品をそろえます。部品会社から購入する部品と社内でつくる部品があります。）

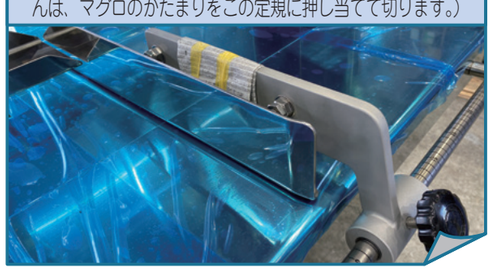
②**ホイールをとりつける**（ホイールと呼ばれる丸い部品を機械の上と下に2つ取り付けます。凍った魚は、2つのホイールに沿ってぐるぐる回るノコギリで切っていきます。）



③**モーターをとりつける**（ノコギリを回転させるモーターを下のホイールにとりつけます。正確にとりつけなければなりません。）

④**制御ボックスをとりつける**（モーターの速度を早くしたり遅くしたりするために電子部品が詰まった制御ボックスをとりつけます。）

⑤**定規をとりつける**（凍った魚のかたまりを同じ大きさに小さく切るため定規と呼ばれる部品をとりつけます。作業員さんは、マグロのかたまりをこの定規に押し当てて切ります。）



⑥**非常停止スイッチ、ノコギリカバーをとりつける**（魚を切る作業員さんの体を守るための部品をとりつけます。）

⑦**操作スイッチをとりつける**（モーターをまわしたり止めたりするスイッチと、ノコギリの早さを変えるスイッチです。）

⑧**上と下のカバーをとりつける。**上のホイール、下のホイールにそれぞれカバー(工場ではドアと呼んでいます)をとりつけます。これで完成です。

金属製品ができるまで

＊おもな製品

木製家具、建築内装材（壁・フローリング・天井など）楽器、車両内装（車・列車）などの表面材として使われています。

＊製品の特長

選び抜かれた天然の原木を薄く削って作られたツキ板は、割れたり反ったりしにくく、曲げることもできます。

＊つくりかた（天然木化粧板ができるまで）

①ツキ板用原木の選定　②木取り（製材）
③ツキ板用フリッチ
④切削（スライド単板・ロータリー単板・ハーフロータリー単板）
⑤ツキ板乾燥（自然乾燥・高周波乾燥・ロール乾燥・熱風乾燥）　⑥ツキ板製品
⑦ツキ板貼り合わせ作業　⑧貼り付け（ホットプレス）
⑨化粧合板の研磨　⑩天然木ツキ板を使った内装

＊おもな材料

欅・楢・タモ・樺・栓・オーク・ウォールナット、檜・杉・松・ヒバ、カリン・チーク・黒檀、サペリ・マコーレ・ブビンガなど100種類を超える木材。

＊おもに使う機械と道具

「製材機」、「スライサー・ロータリー」、「ホットプレス」など。

「ツキ板」の厚みは
・薄物（0.12mm～0.4mm）・厚物（0.55mm～1.0mm）
・特厚物（1.0mm～3.0mm）に分類されます。

＊最もむずかしいところ

木口（切り口の年輪）を念入りに調べて、特別な技術で世界にふたつとない木目の「ツキ板」を作ることです。

＊静岡でできるわけ

昔から静岡では木製の家具がたくさん作られていて、そうした家具の表面を飾る「ツキ板」をはやく作る機械や、電気式の機械が静岡で開発されたからです。

ことば（業界の専門用語）

「突板（ツキ板）」：木材を手鉋で押して突いて作った板が語源です。

「柾目」：丸太の中心に向かって挽くと現れる、年輪が平行な木目のことです。

「板目」：丸太の中心からずらして挽くと現れる、年輪が山形や筍型の木目のことです。

県内事業所数	組合員数2所
県内年間出荷額	不明

（静岡ツキ板協同組合調べ）

＊組　合　静岡ツキ板協同組合

⑩天然木ツキ板を使った内装

⑨化粧合板の研磨（表面を数回研磨し、検査が済んだら家具の表面材や、建築の内装建材などとして出荷します。）

①ツキ板用原木の選定（国内外から集められた原木の中から、美しい木目の丸太を選びます。）

②木取り（製材）（原木を製材工場で一定の長さ、幅、厚さに加工します。）

③ツキ板用フリッチ（製材をして、ツキ板を削るために柾目・板目などのフリッチにします。）

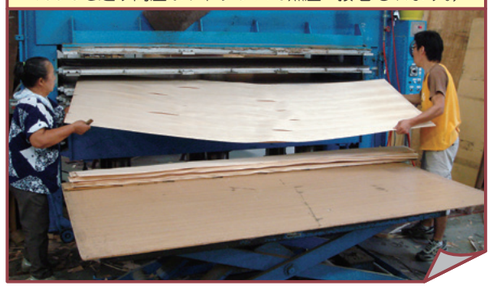
④切削（ツキ板を削る機械には、平らに削るスライサーと、丸く回転して削るロータリーの2種類があります。）

⑤ツキ板乾燥（カビがはえたり、変色しないようにちょうど良い湿度で乾燥します。）

⑥ツキ板製品（ツキ板は丁（ちょう）という単位で数えます。）

⑦ツキ板貼り合わせ作業（合板の上に木目をきっちり合わせて貼り付けます。）

⑧貼り付け（ホットプレス）（合板に貼られたツキ板は、100℃を越す高圧ホットプレスで熱圧・接着されます。）



サンダル・シューズ

Sandals・Shoes

＊おもな製品

紳士・婦人・子供用のサンダル・シューズなど。

＊製品の特長

履きやすく、いろいろなデザインのものがあることです。また、シューズでは、材料に牛皮を使った婦人用（若い女性向き）のものが多いことです。

＊つくりかた（皮製のシューズ）

①製品企画　⑥成型
②裁断　⑦起毛
③ふち折り　⑧底付け
④ミシン加工　⑨圧着
⑤吊り込み

＊おもな材料

牛皮革、ゴム材、塩化ビニール、布生地かたいボール紙、スポンジなど。

＊おもに使う機械

裁断機、ミシン、トーラスター（自動吊り込み機）、乾燥機、起毛機、圧着機など。

＊最もむずかしいところ

材料（主にシューズでは牛皮）の性質にあった製品をつくることと、新しいデザインを考えることです。

＊静岡でできるわけ

昔から静岡にたくさんあった下駄の工場が、サンダルやシューズなどの生産をはじめたからです。また、常に新しい技術やデザインなどの研究もしているからです。最近では、履きやすい「靴」の開発も盛んに行われています。

ことば（業界の専門用語）

「ラスト」…… 足型のことです。
「アーチ」…… 足の裏の反った部分のことです。
「ワイズ」…… 足の甲にあたる寸法のことです。
「アッパー」…… 靴の上側部分のことです。

県内事業所数	1所（平成30年）
県内年間出荷額	不明

資料：静岡県「データでみる静岡県の地場産業」（サンダル製造業）

＊組合　静岡サンダル工業協同組合

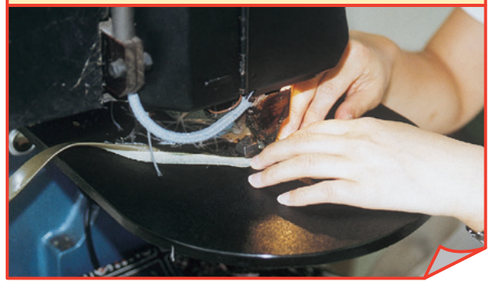
静岡市駿河区曲金3-1-10 特産協内　電話（054）202-9077

「シューズ」

①製品企画（まず、靴の形を考えて、足型を描いた紙型をつくります。）

②裁断（紙型をもとに金属の抜き型をつくり、裁断機で材料の皮を押し切ります。）

③ふち折り（皮のふちは、うすくすいて折り曲げます。）



④ミシン加工（裁断した皮をぬい合わせて、アッパーをつくります。）

⑤吊り込み（靴のアッパーを足型にかぶせて、底にあたる部分を吊り込みます。）

⑥成型（蒸気をあてて靴の形を整えます。）

⑦起毛（接着剤がしっかりつくように、吊り込んだ部分にワイヤブラシをかけます。）

⑧底付け（接着剤を塗って、アッパーと底をはり合わせます。）

⑨圧着（圧力をかけて、アッパーと底が完全に接着すればシューズの出来あがりです。）

⑩完成（検査がすんだ製品は、箱につめられて全国に送られます。）

プラスチックモデル

Plastic Model Kits

＊おもな製品

自動車、船、飛行機、建物、アニメの主人公などの「プラスチックモデル」や「ラジコンカー」。

＊製品の特長

実物をそっくり小さくした精密なモデルで、新しい形も次々に取り入れています。電気で動くいろいろな仕掛けをしたものもあります。

＊つくりかた

①製品企画　④金型をつくる
②資料収集　⑤プラスチック成形
③設　計　⑥部品をセットして包装する。

＊おもな材料

スチロール樹脂、ナイロン樹脂、ABS樹脂など。

＊おもに使う機械

金型製作用の彫刻機、コンピューター付金属かんな盤、プラスチック成形機など。

＊最もむずかしいところ

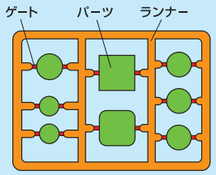
プラスチックを流し込む「金型」を細かいところまできちんとつくることと、キズがつかないようにしっかり管理することです。

＊静岡でできるわけ

静岡は昔から木工業が盛んで、すぐれた技術者により、たくさんの木製模型ができました。そうした技術がプラスチックの加工にいかされて、多くのプラスチックモデルができるようになりました。現在日本でできるプラモデルの約８割が静岡市でつくられています。

ことば（業界の専門用語）

「パ　ー　ツ」：組み立てに必要な部品。小さな部品は切り取らずに塗装すると便利。
「ランナー」：とけたプラスチックの通り道。組み立てにはいらない部分だけど、ランナーがないと部品ができません。
「ゲ　ー　ト」：ランナーとパーツをつなぐ部分。もぎ取ったりしないで、ニッパーなどでていねいに切り取ろう。



県内事業所数	15所（平成30年）
県内年間出荷額	22,670百万円（平成30年）

資料：静岡県「データでみる静岡県の地場産業」（プラモデル製造業）

＊組　合　静岡模型教材協同組合

静岡市駿河区恩田原3-7㈱タミヤ本社内　電話(054)286-5105

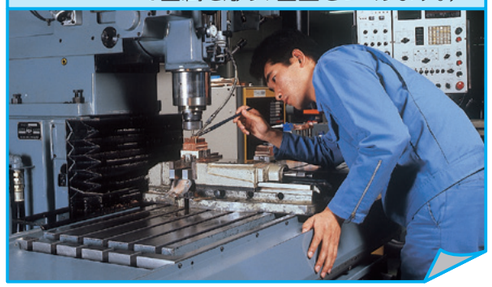
①製品企画（プラスチックモデルにするものを決めます。）

②資料収集（製品をつくるために実物を取材したり、資料を集めます。）

③設　計（細かな部品の一つ一つまでを図面にします。）

④設　計（車のボディなどはコンピューターの画面で形を確かめます。）

⑤金　型（コンピューターで制御された機械で金属を彫り、金型をつくります。）



⑥金　型（金型の表面はていねいにみがかれて仕上げられます。）

⑦成　形（金型を成形機にとりつけて、熱で溶かしたプラスチックを流しこみます。）

⑧セット（模型の部品を検査して箱づめします。）

⑨出　荷（段ボール箱につめられて、日本はもちろん世界中に送られます。）

⑩完　成（組み立て、塗装すれば、世界で１台のモデルが完成。）

お　茶

Green Tea

＊緑茶（日本茶）の種類

せん茶、深むし茶、玉露、抹茶、番茶、ほうじ茶、茎茶、ぐり茶、玄米茶など。

＊静岡茶の特長

色がきれいで香りが良く、おいしいことです。

＊つくりかた（加工の工程）

「荒　茶」
①蒸し　⑤中揉
②冷却　⑥精揉
③粗揉　⑦乾燥
④揉捻

「仕　上　茶」
⑧総合仕上　⑫包装
⑨仕上乾燥（火入れ）
⑩選別
⑪合組

＊おもな材料

茶の葉：茶の木はツバキ科に属する常緑の灌木（低木）です。

＊おもに使う機械

「荒　茶」：蒸機、冷却機、粗揉機、揉捻機、中揉機、精揉機、乾燥機など。

「仕上茶」：総合仕上機、仕上茶乾燥機（火入機）、選別機、合組機、包装機など。

＊最もむずかしいところ

とれる時期や、とれる場所などによりちがう「お茶」の状態を確かめながら、おいしい製品に加工することです。

＊静岡でできるわけ

静岡の気候がお茶をつくるのに適しているからです。また、茶業に関係する人たちが、常においしいお茶をつくるために努力しているからです。

静岡市は現在もお茶の生産・流通両方のはたらきを持った「お茶の街」として発展を続けています。

ことば（業界の専門用語）

「ミル芽採り」……若くてやわらかい新芽を摘むことです。

「親　値」……生産者などがのぞむ荒茶の取引価格のことです。

「本山茶」……安倍・藁科川上流の山あいで育ったお茶のことです。

県内茶栽培面積	15,900ha（令和元年）
県内荒茶生産量	25,200ｔ（令和２年）

出典：「令和元年果樹及び茶栽培面積（7月15日現在）」農林水産省
出典：「令和2年産茶の摘採面積、生葉収穫量及び荒茶生産量」農林水産省

＊組　合　**静岡茶商工業協同組合**

静岡市葵区北番町81静岡県茶業会館　電話（054）271-1955

「荒　茶」

①**蒸　し**（摘みとられたお茶の葉は荒茶工場へ運ばれ、まず、蒸気で蒸されます。）

②**冷　却**（蒸された葉の水分を取り除きながら冷やします。）

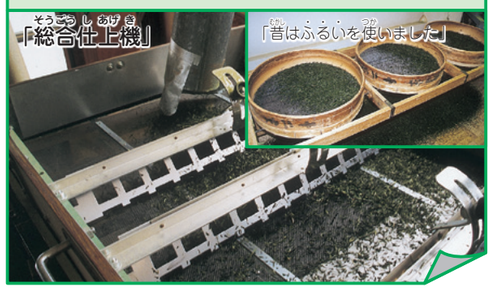
③**粗　揉**（強い力で揉みながら乾かします。）
④**揉　捻**（力を加えて葉の水分を均一にします。）

⑤**中　揉**（もう一度揉みながら乾かします。）
⑥**精　揉**（葉の形を整えながら乾かします。）

⑦**乾　燥**（葉を十分に乾かせば「荒茶」の出来あがりです。）

「仕上茶」

⑧**総合仕上**（荒茶の形をきれいに整えます。）



⑨**仕上乾燥「火入」**（さらによく乾燥させて、お茶の香りや、味をひきだします。）

⑩**選　別**（余分な茎や粉などを取り除きます。）

⑪**合　組**（加工されたいろいろなお茶をまぜ合わせれば、おいしい仕上茶の出来あがりです。）

⑫**包　装**（出来あがった仕上茶は、茶箱や袋などにつめられて全国へ送られます。）

わさび漬

Wasabi（Hoseradish）

＊おもな製品

わさび漬、わさびのり、しょうゆ漬など。

＊製品の特長

静岡のわさび漬は、風味の良さと、ほどよい辛さが特長で、静岡の名物として全国に知られています。

＊つくりかた

①選　別　　⑤かくはん
②細　断　　⑥充　填
③洗　浄　　⑦包　装
④塩　漬　　⑧発　送

＊おもな材料

わさびの根・茎、酒粕、調味料など。

＊おもに使う機械

スライサー、洗浄機、練りこみ機、充填機、包装機など。

＊最もむずかしいところ

毎日同じ辛さの「わさび漬」をつくることと、時間が経っても「わさび漬」から辛さがなくならないようにすることです。

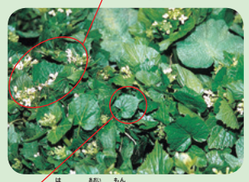
＊静岡でできるわけ

静岡には、わさびを育てるのに適した山間の「涼しい場所」と、きれいな「わき水」がたくさんあるからです。

安倍川上流の有東木地区が「わさび栽培発祥の地」といわれています。

ことば（わさび各部分の名称）

「根茎」…ふつうは根とよびます。1番からい所です。



「花」…3月ころに白くかわいい花をつけます。

「葉」…葵の紋ににています。からみはとても弱いです。

県内わさび産出額	53億円（平成30年）
県内水わさび栽培面積	113.4ha（令和元年）

出典：「平成30年生産農業所得統計」農林水産省
注意：全国値は産出額が1億円以上の都道府県のみの集計
出典：「令和元年特用林産基礎資料」林野庁

＊組　合　静岡県漬物商工業協同組合
静岡市葵区八千代町13　電話(054)251-3916

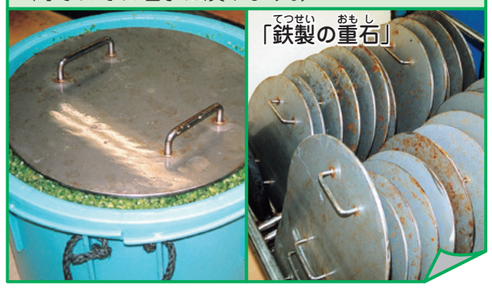
①選　別（安倍川上流の産地などから入荷した「わさび」をていねいに選別し、茎と根にわけます。）

②細　断（まず、軽く水洗いします。）

③洗　浄（きざんだ「わさび」を、もう一度ていねいに水洗いします。）

②細　断（水洗いがすんだら、細かくきざみます。）

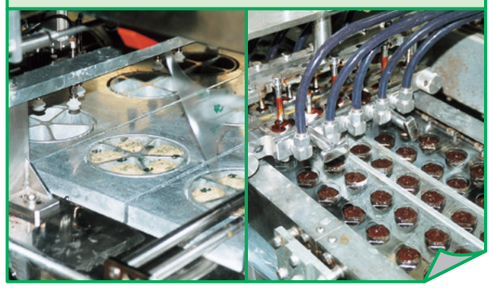
④塩　漬（茎の部分は一晩、根の部分は短時間それぞれ塩水に漬けます。）



⑤かくはん（塩漬けされた根と茎に、酒粕・調味料を混ぜ合わせます。）

⑤かくはん（わさび漬の味を決める大切な作業です。）

⑥充　填（木樽やカップなどに詰めます。）



⑦包　装（辛味が逃げないようにしっかり包装します。）

⑧完　成（出来あがったわさび漬は、地元のおみやげ物店などをはじめ、全国へ送られます。）

しずおか特産品見聞録

～ 特産品を見ることが出来る主な「施設」・「展示場」・「見本市」（一般公開日）・工場・工房など～

「駿府の工房匠宿」

静岡市駿河区丸子3240-1　(054)256-1521

「駿府楽市」

静岡市葵区黒金町47番地アスティ静岡内
(054)251-1147

お茶

近代的な「荒茶工場」

有限会社ネクト（静岡市葵区新間2332番地）(054)277-2111

昔ながらの「仕上茶工場」

有限会社和田長治商店（静岡市葵区安西4丁目51）(054) 252-4300

木製家具

静岡市で開かれる「シズオカ［KAGU］メッセ」

静岡県家具工業組合　(054)254-7201

産業フェアしずおか

公益財団法人静岡産業振興協会　(054)285-3111

プラスチックモデル

「プラモデルメーカーの展示場」

《歴史館》

〈ショールーム〉

〈ロビー〉

株式会社タミヤ　静岡市駿河区恩田原3-7　(054)286-5105

静岡市で開かれる「ホビーショー」

静岡模型教材協同組合　(054)286-5105

注意：見本市や展示会の開催日・会場などについては、各組合にお問い合わせ下さい。
また、工場や職人さんの工房などを訪問するさいには、必ず事前に連絡して下さい。

しずおか特産品見聞録

～ 特産品を見ることが出来る主な「施設」・「展示場」・「見本市」（一般公開日）・工場・工房など～

木製雑貨

静岡雑貨組合　(054)281-2999

建具

静岡建具組合

駿河指物

静岡木工芸組合　(054)254-8702

駿河塗下駄

静岡木製はきもの商工業組合　(054)252-1231
静岡塗下駄工業組合　(054)253-4917
静岡木製はきもの張加飾組合　(054)255-4335

駿河和染

静岡市染色業組合

静岡挽物

静岡挽物組合

木製文具

静岡木製クラフト

金属製品

株式会社秋山機械
静岡市駿河区北丸子1-30-10　(054)259-2779

ツキ板

静岡ツキ板協同組合

わさび漬

「見る工場」STEP IN　たまるや
静岡市駿河区下川原5-34-20　(054)256-1188

注意：見本市や展示会の開催日・会場などについては、各組合にお問い合わせ下さい。
また、工場や職人さんの工房などを訪問するさいには、必ず事前に連絡して下さい。

本冊子のタイトルにある「解体新書」とは、1774年に前野良沢・杉田玄白・中川淳庵らによって著された日本で最初の本格的な西洋医学の翻訳書で、その正確・緻密な内容は、当時の世の中に大きな影響を及ぼしたものと思われます。

そこで、本冊子も、静岡で生まれ育った地場産品が出来るまでの現在の工程を業種別に分解し、わかりやすく紹介することで、地場産業とは何かを考え直す一つのきっかけになればと考えて、「しずおか特産品解体新書」としました。

なお、それぞれの地場産品をつくるうえで、この冊子で紹介している方法が唯一というわけではありませんが、生産現場や生産工程などの取材にあたっては、その分野では現在、パイオニア的存在といわれる企業や職人さんに協力をお願いしました。

～地場産品ができるまで～
しずおか特産品解体新書

平成12年９月　第一巻第１版発行
平成14年８月　第二巻第１版発行
平成18年８月　合併号第１版発行
平成19年９月　合併号第２版発行
平成20年11月　合併号第３版発行
平成21年９月　合併号第４版発行
平成22年９月　合併号第５版発行
平成23年９月　合併号第６版発行
平成24年９月　合併号第７版発行
平成25年10月　合併号第８版発行
平成26年６月　合併号第９版発行
平成27年３月　合併号第10版発行
平成28年３月　合併号第11版発行
平成29年３月　合併号第12版発行
平成30年４月　合併号第13版発行
令和元年７月　合併号第14版発行
令和２年４月　合併号第15版発行
令和３年６月　合併号第16版発行

編集･発行　しずおか焼津信用金庫　お客様サポート部

TEL　054-270-8011
FAX　054-255-3211

第20回信用金庫PRコンクール「最優秀賞」受賞
第10回信用金庫社会貢献賞「地域活性化しんきん運動・優秀賞」受賞
第３回ものづくり日本大賞「優秀賞」受賞（青少年支援部門）
メセナアワード2015「優秀賞」（夢ものづくり賞）受賞

～地場産品ができるまで～
しずおか特産品解体新書

学校名（がっこうめい）		年（ねん）　組（くみ）
名前（なまえ）		

令和３年６月

編集・発行　しずおか焼津信用金庫 お客様サポート部

協力　静岡市、静岡特産工業協会、静岡県産品愛用運動推進協議会
静岡竹工芸協同組合、静岡雛具人形協同組合、静岡木工芸組合、静岡挽物組合
静岡漆器工業協同組合、静岡蒔絵組合、静岡木製はきもの商工業組合
静岡塗下駄工業組合、静岡木製はきもの張加飾組合、静岡市染色業組合
望月栄一、しづはた焼 秋果陶房、静岡県家具工業組合、静岡雑貨組合
静岡木製クラフト、静岡仏壇卸商工業協同組合
静岡ツキ板協同組合、静岡サンダル工業協同組合、静岡模型教材協同組合
静岡茶商工業協同組合、静岡県漬物商工業協同組合